

名前

1. 銅 2. 金 3. 鉄 4. 銀

1. 本初子午線 2. 赤道 3. 日付変更線 4. 北回帰線

1. 南東から北西へ流れている 2. 北西から南東へ流れている 3. 北東から南西へ流れている 4. 南西から北東へ流れている

1. 口分田の割り当てが男性の方が女性よりも多かったため、国から支給される土地をあえて減らしてでも、管理を楽にするために女性として登録したため。

2. 女性には「租・調・庸」のすべてが免除されており、家族全員を女性として登録することで納税を完全に回避できたため。

3. 男性は「防人」として九州の警備に赴く義務があったため、兵役を逃れるために「租」の負担が重い女性として登録したため。

4. 「租」は男女一律に課せられていたが、布や特産品を納める「調」や「庸」の負担が男性にのみ課せられていたため、その負担を逃れようとしたため。

1. 福岡県は、北九州工業地帯を擁しているため、自動車産業が集積する愛知県よりも第二次産業就業者の割合が高い。

2. 島根県は、都市化の進展により第一次産業の割合が極めて低く、愛知県よりも第三次産業就業者人口の割合が高い。

3. 愛知県は、サービス業が主体の福岡県と比較して、農林水産業に従事する第一次産業就業者人口の割合が全国で最も高い。

4. 島根県は、製造業が盛んな愛知県や商業が発達した福岡県と比較して、第一次産業に従事する人の割合が相対的に高い。

1. フォッサマグナと呼ばれ、日本語では大地溝帯とも表現される巨大な溝状の地形である。
2. 火山帯と呼ばれ、プレートの沈み込みに伴ってマグマが噴出することで形成された山岳地帯である。
3. 中央構造線と呼ばれ、関東地方から九州地方まで日本列島を南北に分ける日本最大の断層である。
4. 日本アルプスと呼ばれ、3000メートル級の山々が連なる日本の屋根と称される地域である。

1. 冬でも温暖な気候を活かし、ビニールハウスなどの施設を利用して出荷時期を早めている。

2. 家畜の飼育と穀物・飼料作物の栽培を組み合わせることで、土地の肥沃さを維持している。

3. 夏の冷涼な気候を活かし、他の地域での生産が少ない時期に出荷を遅らせている。

4. 大規模な灌漑設備を整え、乾燥に強いオリーブや果樹などの栽培を専門に行っている。

1. 独占禁止法 2. 労働基準法 3. 消費者基本法 4. 製造物責任法 (PL法)

1. 地方自治では首長と議会が対立しないよう首長は議会から選出されるが、国政では国民の直接投票が優先される。
2. 地方自治では首長が国会議員の中から指名されるが、国政では国民が首相を直接選ぶ直接民主制が徹底されている。
3. 地方自治も国政も、行政の長は立法機関の議員による指名を経て就任することが憲法で義務付けられている。
4. 地方自治では住民が首長を直接選ぶ二元代表制が採られているが、国政では国会議員が首相を指名する議院内閣制が採られている。

1. 国民が挙国一致で戦争に協力する体制が作られ、都市部の子供たちが戦火を避けるために農村へ移住する学童疎開などが行われた

2. 大正デモクラシーの影響により、普通選挙法の実施や労働運動の活発化など、国民の自由な権利を拡大する動きが強まった

3. ワシントン会議の決定に基づき、海軍の主力艦の保有量を制限するなど、軍事費を抑制して民生を安定させる政策がとられた

4. 国際連盟を中心とした国際協調の機運が高まり、軍備を縮小して平和を維持しようとする世論が主流となった

1. 地方交付税交付金 2. 地方譲与税 3. 地方債 4. 国庫支出金

1. 陸奥宗光が、領事裁判権の撤廃を成し遂げた。

1. 国境線が直線であるために、隣国との通行が容易になりすぎた結果、関税の徴収ができず経済的な混乱を招くことになった。
2. 自然の地形を無視して国境が定められたため、河川の流域を管理する権利が曖昧になり、すべての国で深刻な水不足が発生した。
3. 一つの民族が複数の国に分断されたり、複数の民族が同一国家内に強制的に共存させられたりしたことで、民族紛争が起こりやすくなった。
4. 植民地支配時代の国境線を守るために、アフリカ諸国は独自の言語や文化を捨て、宗主国の文化を完全に受け入れざるを得なくなった。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 銅	江戸時代前期には銀が主要な輸出商品でしたが、産出量の減少に伴い、中期以降は銅がそれに代わる重要な輸出資源となりました。秋田などの鉱山で採掘された銅は、物流の拠点である大阪へ運ばれて精錬された後、長崎へ送られ、海外へと輸出されていきました。
問2	答え 1 本初子午線	経度の基準となる0度の線の本初子午線と呼び、1884年の国際会議でロンドンの旧グリニッジ天文台を通る線と定められました。緯度の基準（0度）である赤道や、ほぼ経度180度の地点にある日付変更線と混同しないよう注意が必要です。
問3	答え 2 北西から南東へ流れている	地形図において河川の流れる方向を判断する際は、等高線の数値に着目します。水は高い場所から低い場所へと流れる性質があるため、標高40m～50mの等高線がある北西側が上流、市街地や低地が広がる南東側が下流となります。したがって、この河川は北西から南東に向かって流れていることがわかります。
問4	答え 4 「租」は男女一律に課せられていたが、布や特産品を納める「調」や「庸」の負担が男性にのみ課せられていたため、その負担を逃れようとしたため。	律令国家の税制において、口分田にかかる「租」は男女ともに課せられていましたが、布を納める「庸」や特産品を納める「調」、さらに年間60日以内の労働に従事する「雑徭（ぞうよう）」などの重い負担は、主に男性にのみ課せられていました。生活を維持するために、男性を女性と偽って戸籍に登録する「偽籍」が横行した結果、記録上の男女比が極端に偏る現象が発生しました。これは当時の民衆にとって、税負担がいかに関酷であったかを示しています。
問5	答え 4 島根県は、製造業が盛んな愛知県や商業が発達した福岡県と比較して、第一次産業に従事する人の割合が相対的に高い。	日本の産業構造は全体として第三次産業の割合が高い傾向にありますが、地域ごとの特色も鮮明です。工業が発達した愛知県では第二次産業が、都市機能が集中する福岡県では第三次産業がそれぞれ強みを持っています。これら2県のような工業・都市型県と比較すると、島根県は農業や水産業といった第一次産業に従事する人の割合が相対的に高くなっており、地方部における伝統的な産業構造の特色を維持していると言えます。
問6	答え 1 フォッサマグナと呼ばれ、日本語では大地溝帯とも表現される巨大な溝状の地形である。	中部地方を南北に縦断するこの巨大な溝は、古い地層の間に新しい地層が厚く堆積してできています。混同されやすい「中央構造線」は、西南日本を縦断する巨大な断層であり、フォッサマグナとはその成り立ちや位置が異なります。
問7	答え 1 冬でも温暖な気候を活かし、ビニールハウスなどの施設を利用して出荷時期を早めている。	宮崎県では、冬から春にかけての温暖な気候とビニールハウスを組み合わせることで、他の産地がまだ出荷できない時期にきゅうりなどを栽培する「促成栽培（施設園芸農業の一種）」が活発です。逆に、夏から秋に出荷が多い秋田県などは、その地域の気候に合わせた時期に生産を行っており、産地間で出荷時期をずらす工夫が見られます。
問8	答え 1 独占禁止法	この法律は、企業が互いに競い合うことで、より安く、より良い商品が市場に提供される環境を整えるために制定されました。特定の企業が市場を支配したり、カルテル（価格協定）を結んだりして消費者の利益を損なうことを防いでいます。
問9	答え 4 地方自治では住民が首長を直接選ぶ二元代表制が採られているが、国政では国会議員が首相を指名する議院内閣制が採られている。	地方公共団体において、住民が議会と首長の両方を直接選出する仕組みを「二元代表制」と呼びます。これにより、首長は住民から直接的な正当性を得て行政運営を行います。一方で、国政においては国民が国会議員を選び、その国会が内閣総理大臣を指名して内閣が組織される「議院内閣制」が採用されています。この違いにより、地方の首長は住民に対して直接の責任を負う側面がより強くなります。
問10	答え 1 国民が挙国一致で戦争に協力する体制が作られ、都市部の子供たちが戦火を避けるために農村へ移住する学童疎開などが行われた	日中戦争から太平洋戦争へと戦火が拡大する中、日本では国家総動員法などが制定されて戦時体制（挙国一致）が築かれました。生活物資の配給制や、空襲から子供たちを守るための学童疎開が行われたのもこの時期の特徴です。選択肢にある国際連盟やワシントン会議は、これより前の国際協調が進んだ時期の出来事であり、戦時体制下の動向とは異なります。
問11	答え 1 地方交付税交付金	地方公共団体の財政力には地域によって格差があります。どの地域に住んでいても一定の行政サービスを受けられるように、財源調整を行う仕組みが地方交付税交付金です。この資金は国から配分されますが、具体的な使い道は各自治体の判断に任されている「一般財源」としての性質を持ちます。
問12	答え 3 小村寿太郎が、関税自主権の回復を成し遂げた。	日本の不平等条約改正は二段階に分かれます。日清戦争直前の1894年に陸奥宗光が領事裁判権の撤廃に成功し、その後の1911年に小村寿太郎が関税自主権の回復を成し遂げました。1911年は、年表上では韓国併合（1910年）の翌年であり、明治時代の終わりの時期にあたります。
問13	答え 3 一つの民族が複数の国に分断されたり、複数の民族が同一国家内に強制的に共存させられたりしたことで、民族紛争が起こりやすくなった。	ヨーロッパ諸国による植民地支配下で引かれた人為的な国境線は、現地の生活圏を無視したものでした。1960年の「アフリカの年」を中心に多くの国が独立を果たしましたが、国境線を巡る新たな混乱を避けるために、基本的には植民地時代の境界がそのまま国境として引き継がれました。その結果、言語や宗教を共有する民族がバラバラの国に所属したり、歴史的に対立していた民族が同じ国の中で主導権を争ったりすることになり、政情不安や内戦の大きな背景となりました。